

- 問1 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。 | 2. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。 | 3. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。 | 4. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。 |
|---|--|--|--|
- 問2 16世紀のポルトガルによる日本への鉄砲伝来やキリスト教の布教は、当時のヨーロッパにおける宗教的情勢と深く関わっています。カトリック諸国がアジアへの進出を強めた背景について、正しい用語を組み合わせた説明を選びなさい。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。 | 2. ルネサンスの影響で誕生したプロテスタントが、カトリックを国外へ追放するために海外進出を支援した。 | 3. 宗教改革を弾圧したカトリック諸国が、プロテスタントと協力してアジアでのキリスト教布教を進めた。 | 4. 十字軍の遠征によってカトリックが衰退したため、新しく誕生したプロテスタントが海外貿易を主導した。 |
|--|---|--|---|
- 問3 16世紀半ば、種子島に漂着した西欧人との交流によって日本にもたらされた武器について、その名称と伝えた人々の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------|--------------------|------------------|---------------------|
| 1. 日本刀をオランダ人が伝えた。 | 2. 火縄銃をポルトガル人が伝えた。 | 3. 大砲をスペイン人が伝えた。 | 4. 弓矢を中国（明）の商人が伝えた。 |
|-------------------|--------------------|------------------|---------------------|
- 問4 戦国大名の朝倉氏が、拠点である一乗谷において、それまで各領地にいた有力な家臣をすべて城下町に移住させた目的として、最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため | 2. 家臣に独自の関所を設置させることで、商工業者から税を徴収しやすくするため | 3. 家臣を海外貿易の拠点に近い沿岸部に集め、輸入品を独占的に管理させるため | 4. 家臣に領地の経営を完全に任せることで、大名が外交や文化活動に専念するため |
|--|---|--|---|
- 問5 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（ ）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」 (2023年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|------|-------|
| 1. 荘園 | 2. 幕領 | 3. 藩 | 4. 領国 |
|-------|-------|------|-------|
- 問6 戦国大名が自らの領国内を独自に統治するために定めた、一族や家臣、領民が守るべききまりを何といいますか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|-----------|----------|
| 1. 御成敗式目 | 2. 分国法 | 3. 慶安の御触書 | 4. 武家諸法度 |
|----------|--------|-----------|----------|
- 問7 16世紀半ばに種子島へ伝来した鉄砲は、その後の日本の戦い方を大きく変えることとなりました。鉄砲の普及が戦国時代の社会や軍事面に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|------------------------------------|--|
| 1. 騎馬武者の一騎打ちが重視されるようになり、個人の武勇がより重んじられた | 2. 鉄砲の製造が困難であったため、京都周辺の限られた大名だけが勢力を伸ばした | 3. 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した | 4. 武器の威力が向上したため、平地での戦闘を避けて山城にこもる戦術が一般的になった |
|--|---|------------------------------------|--|
- 問8 応仁の乱ののち、実力で領地を広げた戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を支配するために独自に制定した法律を何といいますか。 (2023年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|----------|---------|----------|
| 1. 分国法 | 2. 御成敗式目 | 3. 建武式目 | 4. 武家諸法度 |
|--------|----------|---------|----------|
- 問9 戦国大名の武田信玄が制定した「甲州法度之次第」のように、当時の有力な大名たちが独自の法律を定めた主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|---|----------------------------------|------------------------------------|
| 1. キリスト教の布教を制限し、外国との貿易を大名が独占するため | 2. 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため | 3. 室町幕府の命令を全国の農民に守らせ、将軍の権威を強めるため | 4. 朝廷から与えられた官位の順序に従って、家臣の序列を整理するため |
|----------------------------------|---|----------------------------------|------------------------------------|
- 問10 1543年、九州の南側に位置する種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. この武器は高度な技術が必要だったため国内での製造ができず、終始輸入に頼っていた。 | 2. この武器は弓矢と呼ばれ、従来の騎馬武者による一騎打ちをより重視させるようになった。 | 3. この武器の伝来と同時にフランシスコ・ザビエルによってキリスト教が日本に広められた。 | 4. この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化した。 |
|---|--|--|---|
- 問11 戦国大名が「分国法」を制定した主な目的として、当時の社会情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|---|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 朝廷の権威を借りて、隣接する他の領国を経済的に圧迫するため。 | 2. 自らの領国における家臣同士の私的な争いを禁じ、大名による統治を強化するため。 | 3. 開墾した土地を永久に私有することを認め、農業生産力を高めるため。 | 4. 鉄砲の伝来に伴い、全国共通の武器使用ルールを室町幕府が定めるため。 |
|-----------------------------------|---|-------------------------------------|--------------------------------------|
- 問12 日本地図において、中国地方の日本海側に面した島根県に所在し、かつて「灰吹法」という技術を導入して生産量を飛躍的に高めた銀山を次の中から選びなさい。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 石見銀山 | 2. 足尾銅山 | 3. 富岡製糸場 | 4. 生野銀山 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問13 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。 (2025年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|---------|------------|
| 1. 寄親 | 2. 守護大名 | 3. 戦国大名 | 4. キリシタン大名 |
|-------|---------|---------|------------|
- 問14 島根県に位置し、戦国時代から江戸時代にかけて大量の銀を産出した日本最大級の銀山で、2007年に世界文化遺産に登録された場所を次の中から選びなさい。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 別子銅山 | 2. 石見銀山 | 3. 佐渡金山 | 4. 生野銀山 |
|---------|---------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強力に統率し、富国強兵を図る狙いがありました。
問2	答え 1 宗教改革によって誕生したプロテスタントに對抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。	当時のヨーロッパでは、宗教改革の進展によってキリスト教の世界がプロテスタントとカトリックに二分されていました。特にポルトガルやスペインなどのカトリック諸国にとって、海外進出は単なる商業的な利益だけでなく、プロテスタントに対抗してカトリックの教えを世界に広めるという重要な使命を持っていました。このため、大航海時代の進出は貿易とキリスト教の布教が一体となって進められました。
問3	答え 2 火縄銃をポルトガル人が伝えた。	1543年に種子島へ漂着したポルトガル人によって、火縄銃（鉄砲）が日本に初めて伝えられました。当時の種子島の領主はこれを買取り、刀鍛冶に命じて仕組みを研究させ、国産化を成功させました。これがきっかけとなり、鉄砲は瞬間に日本全国の戦国大名の間へ普及することとなりました。
問4	答え 1 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため	戦国大名は、家臣が自分の領地に深く根を下ろしていると反乱の恐れがあると考え、一乗谷のような拠点に家臣を住まわせることで直接的な監視を行いました。同時に、一箇所に家臣やその兵力を集めることで、戦時に迅速な出陣が可能となる軍制を構築しました。これは、後の豊臣秀吉らによる「兵農分離」へとつながる重要な政策です。
問5	答え 4 領国	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国強兵を進めるための重要な手段でした。
問6	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰退する中で、戦国大名は自らの力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私闘の禁止や領民の統制を目的に制定された独自の法律が「分国法（家法）」です。これにより、大名は幕府の法に縛られることなく、領国内の秩序を維持しました。
問7	答え 3 足軽などの歩兵による集団戦法が主流となり、戦いの規模が拡大した	鉄砲はそれまでの弓や刀に比べ、習得が比較的容易で高い殺傷能力を持っていたため、大量の足軽に装備させて組織的に運用する集団戦法を生み出しました。これにより、一騎打ちを中心とした従来の戦い方は衰退し、織田信長が長篠の戦いで活用したように、大規模な軍勢力を持つ戦国大名が有利になる社会構造へと変化しました。
問8	答え 1 分国法	室町時代の中期から後期にかけて、幕府の権威が衰え戦乱が全国に広がる中、各地に戦国大名が登場しました。彼らは土地の争いや家臣の統制、年貢の徴収などを円滑に行い、自分の領国を安定して支配するために独自の法律を定めました。鎌倉時代の「御成敗式目」や江戸時代の「武家諸法度」と混同しないよう注意が必要です。
問9	答え 2 家臣同士の争いを抑え、民衆を含めた領民全体を統制して領国を安定させるため	戦国大名は、領国内での紛争を解決し、家臣団の結束を固めることで軍勢力を維持し、他国との戦いに備える必要がありました。「甲州法度之次第」では、人々の行動を取り締まることで国の統治を目指す姿勢が示されています。これは中央政府である幕府ではなく、各大名が独立して統治を行っていた実態を反映しています。
問10	答え 4 この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化させた。	1543年に種子島へ伝来した鉄砲は、それまでの武士個人による一騎打ちから、足軽の集団が鉄砲を一斉に射撃する戦術へと戦い方を一変させました。鉄砲はその後、堺（大阪府）や国友（滋賀県）などで国産化が進み、全国の戦国大名へと普及しました。なお、キリスト教の伝来は1549年であり、鉄砲の伝来とは時期や経緯が異なります。
問11	答え 2 自らの領国における家臣同士の私的な争いを禁じ、大名による統治を強化するため。	戦国大名は、家臣同士の復讐や紛争（自力救済）を禁止し、大名による裁判を受けさせることで領内の秩序を保とうとしました。これにより、軍勢力を維持しつつ大名の権力を絶対的なものにする狙いがありました。「喧嘩両成敗」の規定などはその代表例です。他の選択肢にある「全国共通のルール」や「墾田の私有」などは、分国法の性格とは異なります。
問12	答え 1 石見銀山	石見銀山では、鉱石から銀を取り出す「灰吹法（はいふきほう）」という技術が導入されたことで、生産量が急増しました。兵庫県の生野銀山や、愛媛県に位置し銅を産出した別子銅山などと混同しやすいですが、島根県という立地と、大航海時代の世界経済に影響を与えた規模の大きさが石見銀山の大きな特徴です。
問13	答え 4 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問14	答え 2 石見銀山	島根県大田市に位置するこの遺跡は、16世紀に博多の豪商らによって本格的な開発が始まり、江戸時代には幕府の直轄地（天領）として重要な財源となりました。良質な銀を大量に産出したことから、東アジアやヨーロッパとの交易において極めて重要な役割を果たしたことが評価され、世界文化遺産に登録されています。